

べいあっぷ環境レポート

復活5年目!「お台場海苔」

平成18年に約40年ぶりにお台場で海苔づくりが復活し、5年目を迎えました。今年は地域の方々で「お台場海苔づくり実行委員会」をつくり、港陽小学校5年生と地域の人々が協力して、12月23日にお台場の海に「ひび」を建て、海苔網を張って開始しました。5シーズン目の海苔づくりは、海苔の生長も順調で1月23日の中間刈り取りでも、やわらかく質の良い海苔がたくさん採れました。



お台場の海をおいしくするぞー!!



海苔づくりが始まりました(12/23)



順調に育っています(1/19)



和船から海苔の観察(1/23)



とてもやわらかな海苔です(1/23)

そして2月13日の海苔収穫と海苔すきの日、天気はあいにく雪まじりの寒い日となりましたが、5年生や保護者、地域の皆さんは、手を真っ赤にしながらかせと海苔摘みをし、細かく刻み、海苔すき作業を行いました。作業終了後、採りたてのお台場生海苔で作ったお味噌汁は味も絶品で、凍えた身体をしっかりと温めてくれる、まさに「ふるさとお台場」の味です。午後からは、日本橋の佃煮屋さんから「生海苔の佃煮づくり」を教わり、こちらの味も大満足。



寒いけど頑張って海苔を摘むぞ

翌日(14日)はお天気も回復し、13日にできなかった分の海苔すきを行いました。急な実施だったにもかかわらず、港陽小PTAの皆さんや地域の方も快く参加してください、2時間で500枚ほどの海苔をすき、お台場の町に潮の香りと海苔の「鳴き声」を届けました。この海苔は、15日に5年生が1枚ずつ海苔簾からはがし、袋につめ、港陽小学校全学年の児童と、海苔づくりを手伝ってくださった地域の皆さんに配りました。



袋に海苔を一気に流し込みます



しっかり水分を絞って



のりす海苔簾についた海苔を天目で干してできあがり

お台場ふるさとの海づくりフォーラム

3月6日に「お台場ふるさとの海づくりフォーラム」が開催されました。「ふるさとの海」として記憶に残るのはどんな海か、そのために何をしようか皆で考えようというイベントで、お台場干潟での環境学習等の紹介や、東邦大学理学部生命圏環境科学科の風呂田利夫教授の「お台場の海を知ろう!」という講演の後、参加者全員がグループにわかれて話し合いました。短い時間でしたが、お台場を泳げる遠浅の海に!鳥の島でキャンプがしたい!海中散歩ができるガラス張りのトンネルをつくる!お台場の歴史を学ぼう!等々さまざまな意見が出て、とても楽しい未来予想図が描けました。



お台場ふるさとの海づくりフォーラム

この様子は、4月1日~15日の毎日10時、13時、21時から、みなとケーブルテレビの「やっぱりみなとくくっとGood!」で放送されます。ぜひご覧ください。

進展する食の情報拾い読み

お米とサバとマグロの関係?! ~メタボを気にせずマグロさんまい!

世界で捕れるマグロの約4分の1を消費しているほどマグロ好きな日本人ですが、世界で5つの国際組織が管理している漁獲枠は、自然保護団体の運動等で年々規制が厳しくなっています。そんな時、耳目を惹く報道がありました。地元東京海洋大学の潮秀樹准教授が双日ツナファーム鷹島株式会社とともに開発中の研究、その概略はマグロの稚魚の餌である小魚に、米ぬかの成分オリザノールを与えると、マグロが成長するにつれ、体内でオリザノールの蓄積が数千倍になり、そのマグロを食べると脂質や糖質の代謝が良くなって結果メタボになりにくいというものでした。この養殖マグロの利点は、通常より成育が早いことでコスト削減にもなり、味は天然物と変わらず、より鮮度が長く保つことだそうです。

現在では、ブリやタイなどの養殖魚が市場に出回っていますが、メタボになりにくいマグロは2年後くらいに市場に出回るようです。



砂漠でもどこでも新鮮パリパリ野菜!!

スーパーでもおなじみになった水耕栽培の野菜は、清潔に管理栽培されているのでサッと水をくぐらせるだけのエコな生食野菜でレタスやトマト等かなり長持ちします。何より、気候変動にも対応できる未来志向の野菜が、ますます増えているようです。ブームの野菜づくりも、建物に負荷をかけない資材の進歩でコンテナ内でも野菜づくりが簡単にできる時代です。最近この清浄野菜をどこへでも移動可能な大型コンテナでつくる企業が、砂漠の多い中東で商談を成立させたとの朗報がありました。自然をも科学し、技術革新で生き残る日本の底力がどこまで進展するのか目が離せません。



遊び心いっぱい!ぶらりひょうたん・ゴロンとヘチマで化粧水までできる緑のカーテン

学校でも家庭でも緑のカーテンづくりが盛んです。ゴーヤは買えますが自分で作らなければ楽しめないのが「千成ひょうたん」や「ヘチマ」です。特にお子さまのいるご家庭にお勧めなのが、「千成ひょうたん」。その名の通り、たくさんの小さな実が鈴なりにコロコロとなるさまはおもしろいものです。縁起の良いひょうたんはプロの手で水筒や楽器にもなります。種苗店で緑



のカーテン用と記載されている種を購入すると袋に栽培方法が書かれています。ヘチマ(糸瓜)も、種まきは遅霜の心配のない4月後半が安全です。アサガオ以外の種は水につけることは厳禁。インターネットでも昔懐かしい肌に優しいヘチマコロンやスポンジの作り方等情報が豊富です。

(緑のカーテン初心者の方には、種類豊富なアサガオやブラックベリー、ジャスミン、風船かずら等商品が数多く販売されています。大型のプランターに苦土石灰や有機肥料など、多めの肥料が必

連載コラム 普通もイロイロ それでもやっぱり普通が一番

平素何気なく使っている「普通の人」とか「普通のこと」という言葉は、考えてみると結構意味深い。改めて辞書で引くと、普通人とは『特別の地位や権力を持つ特殊な人の対義語で一般人のこと』、普通のこととは『基本的当たり前なこと』とあります。お国柄によって気質の違いがあっても、社会を構成している大多数の一般人に共通しているのは、富も教育も環境も関係なくそれぞれの共同体で自立し、個々の利害に関係なく義務とか責任とか教えられなくても身につけている生き方、それは親子・孫・ひ孫と代々つながってきた良質の遺伝子としか言いようがないものに思えます。

それぞれの地で、権力にもこびず付和雷同しない普通の人々、どんな富も栄誉も永久不変でない、どんな共同体も大多数の普通の人々がいなければ成り立たない。人間は生きてきたように命をつないでいくともいわれま



べいあっぷ編集部 石井弘子